

事例5

足利市三重公民館・足利市立三重小学校

地域をつなぐ「学校ボランティア市」



連携の経緯

足利市の三重公民館では、約10年前から高齢者学級の受講者と三重小学校の3年生との交流活動を行ってきた。回を重ねるごとに高齢者の中では、単なる「交流」ではなく、少しでも子どもたちの役に立ちたいという「貢献」へと意識が変化し、学校の役に立ちたいという声が高齢者から上がった。そこで、足利市教育委員会で行っている「学校ボランティア市（いち）」を活用し、それまでの「交流」から

「貢献」へと質的な変換を求めて、新たな事業展開となった。

連携事業の概要

平成15年から、足利市教育委員会では希望のあった学校に対し、学校や公民館を会場とした「学校ボランティア市（いち）」（見本市）を実施している。

三重公民館は、高齢者学級（高齢者ふれあいセミナー）の受講者を中心に、地域のボランティアや公民館のサークルに呼びかけ、これまでの学習の成果や趣味・特技を生かして子どもたちに体験的な活動を提供する「学校ボランティア」を募集した。その方々に、授業のプログラムづくりや活動内容、対象年齢に合った説明の仕方などを学ぶ事前研修を行った後、公民館に隣接した三重体育館を会場として「学校ボランティア市」を開催した。当日は、三重小学校3年生が「総合的な学習の時間」の一環として参加し、各ブースをまわりながら、民話、手話、匂い袋づくり、生け花、ファミリーバドミントン、地域の昔の様子の語り、昔の遊び（割り箸鉄砲、折り紙、メンコ、コマ、おはじき、お手玉）といった様々な活動を体験することができた。

連携の形態

本事業は、公民館主催事業で、学校に事業協力を依頼するかたちで実施されている。

学校では3年生の学年主任が窓口となり、公民館が学校と地域の「学校ボランティア」とをつなぐコーディネーターとなっている。

学校は、子どもたちに豊かな体験をさせるための計画、学び方、その生かし方についての検討と指導を行い、公民館は、子どもたちにより内容のある豊かな体験をしてもらうための場の設定や企画・運営を担当している。

足利市三重公民館

【施設データ】

所在地	足利市五十部町472
電話	0284-21-9719
設置年	昭和55年
対象地域人口	9,500人
延床面積	502.58㎡
設置状況	単独
URL	http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/

【施設の管理運営等】

職員の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・館長（専任1） ・主査（専任2） ・主任主事（専任1） ・労務員（専任1） 		
協議会等			
予算額	維持管理費： 443,700円	事業費： 552,000円	

連携の留意点

- 学校では、授業の一環として実施しているため、打ち合わせや準備などに時間をとるべきことなく、どちらかに大きな負担がかからないようにできるだけ計画的に実施する。打ち合わせは夕方4時過ぎに、双方を行き来しながら行う。
- 会場は、学校の授業などに支障がないように「学校ボランティア市」を実施するため、また、事前の準備も会場の空いている時間にしやすいため、公民館に隣接した三重体育館にしている。
- 当日の子どもたちの班編制や体験の順序などは事前に学校側で指導を行い、ボランティアに対する子どもとの接し方についての注意や用具などの準備などは公民館側で行う、といった役割分担を明確にする。



成果

- 高齢者が交流だけでなく、具体的に子どもたちのための貢献活動を行ったことにより、子どもたちや学校・地域から必要とされる存在として意識されるようになり、いきがいをみつけることができた。
- 子どもたちは、学校だけでは体験できない様々な活動を実施することができ、今後の学習活動や学びに生かされる体験となった。



課題

- こうした一過性のイベントによる連携ではなく、日常的に地域の人々が学校に出かけてボランティア活動ができるようになることが大切である。